

第2章 基本理念と目標像

上位計画である「福岡市総合計画」の内容を踏まえ、計画策定の視点を整理し、基本理念と目標像を設定します。

2.1 福岡市総合計画

●「福岡市基本構想」(平成24年12月策定)

○都市像

『住みたい、行きたい、働きたい。アジアの交流拠点都市・福岡』

- 1 自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市
- 2 自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市
- 3 海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市
- 4 活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市

●「第9次福岡市基本計画」(平成24年12月策定)

○目標年次：平成34年度

○都市経営の基本戦略

- (1) 生活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出す
- (2) 福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う

○分野別目標

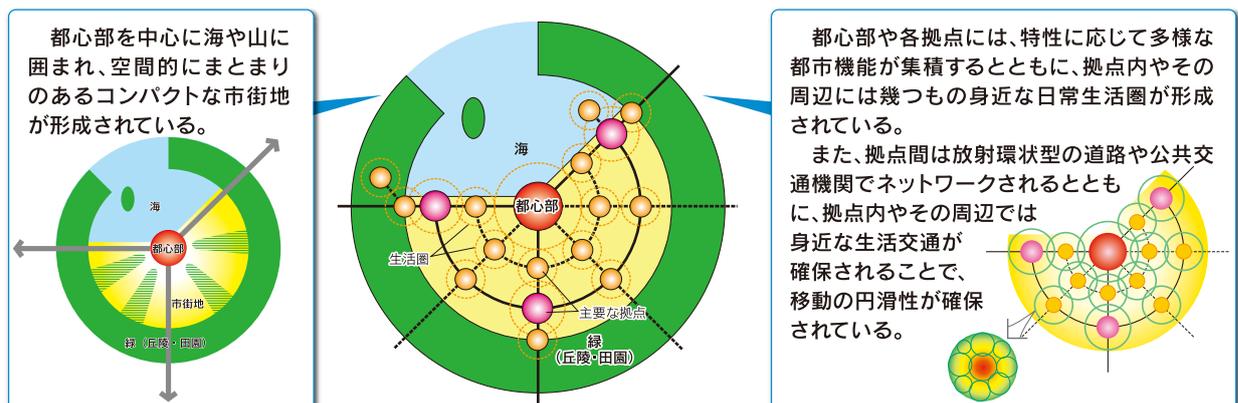
- 1 一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている
- 2 さまざまな支え合いとつながりができている
- 3 安全・安心で良好な生活環境が確保されている
- 4 人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている
- 5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
- 6 経済活動が活発でたくさんの働く場が生まれている
- 7 創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している
- 8 国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている

○空間構成目標

目指す姿

- ・海や山に囲まれた地形的な特徴を生かし、都心部を中心に、まとまりのある空間的にコンパクトな市街地が形成され、都市の魅力と豊かな自然環境が調和し、安全・安心な暮らしのもと、市民が日常的にそれを享受しています。
- ・福岡市の成長のエンジンである都心部を中心に、都市の成長を推進する活力創造拠点や、市民生活の核となる東部・南部・西部の広域拠点、地域拠点などに、拠点の特性に応じて多様な都市機能が集積し、市民活動の場が提供され、交通基盤のネットワークにより移動の円滑性が確保された「福岡型のコンパクトな都市」が実現しています。

■福岡市における「コンパクト」な都市の概念



【空間構成目標の実現に向けた交通体系の方向性】

- 都心部を中心に市民生活の核となる拠点をつなぐ都市軸を骨格として、公共交通機関や幹線道路のネットワークの充実・強化を図ります。
 - 既存の交通基盤や新たな技術などを生かしながら、鉄道やバスなどの公共交通機関相互の連携や交通結節機能の充実・強化を図り、分かりやすく使いやすい公共交通を主軸として、徒歩や自転車、自家用車などの多様な交通手段が相互に連携した総合交通体系の確立をめざします。
- ①「都市の成長」を支える交通体系の方向性
- 九州・アジアなどとの広域的な交流を促進するため、陸海空の広域交通拠点の充実・強化や、都心部における回遊性の向上を図ります。
 - 公共交通機関の利便性向上や幹線道路の整備などにより都心部・活力創造拠点などへのアクセスの強化を図ります。
- ②「質の高い生活」を支える交通体系の方向性
- 快適で生活しやすい居住環境を形成するため、市民生活の核となる拠点へのアクセスの強化を図るとともに、福岡市、市民、公共交通事業者などの協力と連携のもと、日常生活を支える生活交通の確保を図ります。

2.2 計画策定の視点

「福岡市総合計画」の内容を踏まえ、計画策定の視点を8つに整理します。

◆ 福岡型のコンパクトな都市づくりの推進

- ・ 都市構造と一体となった総合交通体系の構築

◆ 既存施設の有効活用と公共投資の選択と集中

- ・ 既存施設の有効活用や効率的投資

◆ 誰もが安全・安心で利用しやすい交通環境の創造

- ・ ユニバーサルデザインの理念による交通環境の創造

◆ 地域の実情に応じた生活交通の確保

- ・ 子どもや高齢者等の生活交通の確保
- ・ 地域の実情や特性に応じた新たな交通サービス

◆ 都市防災への対応

- ・ 災害に強い交通ネットワークの形成

◆ 環境負荷の少ない持続可能な都市の実現

- ・ 鉄道やバスなど公共交通の利便性向上と利用促進
- ・ 自転車の通行空間の確保と適正な利用促進
- ・ 道路交通混雑の緩和

◆ 都心部の活力の向上

- ・ 回遊性の向上
- ・ 都心の活力を支える都市交通の円滑化
- ・ エリアマネジメント団体等との共働

◆ 福岡の成長を支える広域交通拠点機能の拡充

- ・ 陸・海・空の広域交通拠点の充実・強化
- ・ 来街者にも分かりやすく使いやすい交通環境の創造
- ・ 広域交通ネットワークの強化

2.3 基本理念と目標像

計画策定の視点から、交通体系づくりの基本的な考え方として「基本理念」を掲げ、平成34年度(2022年度)の交通体系の望ましい姿を5つの「目標像」として掲げます。



各目標像の関係は、目標像Ⅰの「都市の骨格を形成する総合交通体系の構築」がその他の目標像の基礎となります。

○各目標像の説明

目標像Ⅰ 都市の骨格を形成する総合交通体系の構築

過度に自動車に依存しない「歩いて出かけたくなるまち」の実現に向け、快適な都市活動を支える地下鉄や道路などの交通基盤の整備や、市民や来街者に分かりやすく使いやすい公共交通体系づくりを進めるとともに、市民・企業、交通事業者、行政が連携して施策に取り組むことにより、公共交通を主軸とし、多様な交通手段が相互に連携した総合交通体系の構築をめざします。

目標像Ⅱ 子どもから高齢者まで誰もが安全・安心な交通

ユニバーサルデザインの理念に基づき、子どもから高齢者まで年齢や障がいの有無等にかかわらず誰もが安全で安心に移動できる交通環境づくりを進めるとともに、地震などの災害にも対応できる交通体系の実現に向けて取り組むことにより、すべての人にやさしい安全・安心な交通をめざします。

目標像Ⅲ 環境にやさしい交通

地球温暖化の原因となる二酸化炭素などの温室効果ガスの排出削減に向け、過度な自動車利用から環境にやさしい鉄道やバスなどの公共交通への利用転換や自転車の適正な利用を促進するとともに、徒歩で移動しやすい交通環境づくりや道路交通の円滑化、次世代自動車の普及促進などを図ることにより、環境負荷の少ない持続可能な都市を支える交通をめざします。

目標像Ⅳ 活力ある都心部を支える交通

都市の活力を牽引する都心部の機能強化と更なる魅力づくりを推進するため、天神・渡辺通、博多駅周辺、博多ふ頭・中央ふ頭の3地区を中心として回遊性の向上や交通拠点間の連携強化を図るとともに、多くの人や物が集中する都心部において公共交通でのアクセス強化や交通の円滑化を図ることにより、活力ある都心部を支える交通をめざします。

目標像Ⅴ 国内外からの広域的な人流・物流を支える交通

成長を牽引する九州・アジアなどからの人流・物流のゲートウェイづくりを進めるため、陸・海・空の広域交通拠点の結節機能強化や外国人居住者や国内外からの来街者にもわかりやすい交通環境づくりを図ることにより、アジアの交流拠点都市にふさわしい広域的な人流・物流を支える交通をめざします。

